

令和7（2025）年度地域づくりスキルアップセミナーⅡ②実施報告

実施日：令和7（2025）年11月5日（水）

本研修では、演習を通して、対話や議論を可視化して分かりやすく提示する知識や技能の習得を目指します。第2回は、グラフィックレコーディングに関する実践的な演習を行いました。

○説明・演習「グラフィックレコーディングを学ぼう・生かそう！」

多摩美術大学情報デザイン学科 講師 清水 淳子 氏

前半では、部門・専門性・思考の「あいだ」にある空白をつなぐデザインとして、ビジュアライズ（情報やデータを目で見て分かる形にすること）の5つの条件（①全員で全体が見える、②思考の重なりが見える、③今起きたことが見える、④自分の本音が見える、⑤他者との接点が見える）について説明がありました。

その中で、グラフィックレコーディングの有効性として、白紙からリアルタイムで記録することで信頼の醸成につながる、話を聞きながら適切なグルーピングを行うことで意見が整理され隠れたテーマを見つけ出せること、分類を伝えることでビジュアルスピーキング（言葉だけでなく、視覚的な要素を使ってより効果的に伝えるコミュニケーション技術）につながるなどが示されました。

続いて、リアルタイムでグラフィックレコーディングを行う演習が実施されました。受講者はグラフィックレコーダーになったつもりで、約10分間のプレゼンテーション動画を視聴し、A3用紙に内容を書き出しました。その後の5分間で、文字の囲みや矢印、絵の追加などを行い、前半で学んだポイントをふまえながら各々のグラフィックレコードを完成させました。

後半では、チームで「AIと地域が共に育つアイデア」を考える演習が行われました。4人グループに分かれ、テーマに関するアイデアをA3用紙や模造紙に書き出して可視化し、最後に順番に発表を行いました。グラフィックレコーディングの方法はグループによって様々でしたが、模造紙に書き出すことで、考えの広がりや深まりが見られました。

受講者は2日間の研修を通じて、グラフィックレコーディングに関する技能を習得できたようです。研修で得た学びを、それぞれの活動の場で活用していただけることを願っています。

☆受講者の声（アンケートから）

- ・グラフィックレコーディングが何かも分からず参加しましたが、これは活用できる！と感じました。
- ・グラフィックレコーディングには様々なパターンがあるのは分かりましたが、大切なのは意見を共有し、みんなで作り上げていくことだと感じました。チャンスがあれば積極的にグラフィックレコーディングに挑戦していきたいです。
- ・グラフィックデザインそのものの学びだけでなく、物事の捉え方や考え方にも大きなプラスとなる研修でした。

